

授業科目名	クリティカルケア看護演習Ⅳ <i>Seminar in Critical Care Nursing IV</i>			担当教員	
開講年次	1年通年	セメスター	1・2	時間数(単位数)	60(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	演習	使用教室	
授業の目的	クリティカルケアのサブスペシャリティである救命・救急看護における専門性を理解したうえで高度な実践力を養う。				
到達目標	1. 救急患者の緊急度を把握するために必要となるフィジカルアセスメントを実践できる。 2. アセスメント結果を踏まえ、臨床推論のプロセスを効果的に使い、救急患者の緊急度を正確に把握することができる。 3. 緊急時のケアとキューに関するスキルをみがき、急変対応能力を高めることができる。 4. 救急患者、家族の心理状態をアセスメントし、必要となる看護ケアを導き出せる。				
授業計画	本授業では、高機能シミュレーターを用いた演習を中心に、フィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント、およびクリティカルシンキング能力の向上をめざし、症例シナリオを繰り返し実践することで、救急看護師に必要な臨床推論の思考プロセスの修得をめざす。 1回 : 緊急度判定における基本概念の整理、患者の特徴、緊急度判定能力とは 2回 : 緊急度判定における臨床推論とは、その思考プロセス 3～4回 : 症例シナリオを用いた臨床推論：フィジカルアセスメントの実際① 5～6回 : 症例シナリオを用いた臨床推論：フィジカルアセスメントの実際② 7～8回 : 症例シナリオを用いた臨床推論：フィジカルアセスメントの実際③ 9～10回 : 症例シナリオを用いた臨床推論：フィジカルアセスメントの実際④ 11～12回 : 症例シナリオを用いた臨床推論：フィジカルアセスメントの実際⑤ 13～14回 : 日本語版緊急度判定支援システム(JTAS)の概要 15～20回 : 日本語版緊急度判定支援システム(JTAS)の実践 21回 : 急変対応、緊急時のケア：来院時心肺停止への対応、救命処置 22回 : 急変対応、緊急時のケア：呼吸を安楽にするためのケアとキュー 23回 : 急変対応、緊急時のケア：循環を安定させるためのケアとキュー 24回 : 急変対応、緊急時のケア：急性薬物中毒患者へのケアとキュー 25～28回 : 急変対応、緊急時のケア：輸液・輸血管管理、救急外来で使用する薬剤の効能のメカニズム 29回 : 救命・救急における終末期看護 30回 : 救命・救急における終末期看護				
学習方法	共通科目の「フィジカルアセスメント特論」、「病態生理学特論」を十分に理解したうえで、演習に臨む必要がある。				
オフィスアワー					
テキスト	毎回の講義で提示する				
参考文献	山勢博彰：救命救急ディーズ。東京，学研メディカル秀潤社，2015。 日本臨床救急医学会：緊急度判定支援システム。東京，へるす出版，2010。 日本臨床救急医学会：緊急度判定支援システムプロバイダーマニュアル。東京，へるす出版，2011。				
評価方法	授業への積極的参加度(30%) 救命・救急における終末期看護に関するレポート(70%)				